



相模原市立博物館で イヌとヒトの絆を科学的に解明する講演会を開催！

麻布大学いのちの博物館×相模原市立博物館連携講演会 vol.2

「ヒトとイヌの絆 最新研究が示す、特別な関係の現在、過去、未来」

人類が初めて家畜化した動物であるイヌは、ヒトとの長い長い関わり合いの中で、ヒトによる交配だけではなく、イヌ自身が、ヒトの地域文化などを受け入れながら適応してきた可能性があります。興味深いことに、日本の柴犬や秋田犬などのアジア原産の犬種は、遺伝的にオオカミに近い古代種に分類されます。今回の講演会では、ヒトとイヌの絆の強さを科学的に証明した研究で世界的に注目を集める菊水健史博士が、日本犬の特徴をもとに、遺伝と文化の相互作用、さらにはそこから導き出された地域活性化の展望について紹介します。

日 時：令和7年3月20日（春分の日） 午後2時～4時

会 場：相模原市立博物館 地階 大会議室

（相模原市中央区高根3-1-15）

定 員：200名（当日先着順） 入場無料

主 催：相模原市立博物館

※この講演会は、令和5年4月に締結された「麻布大学いのちの博物館と相模原市立博物館との連携事業に係る覚書」にもとづき開催するものです。

講師プロフィール

きくすいたけふみ

菊水健史さん

東京大学農学部獣医学科卒、博士（獣医学）。麻布大学獣医学部動物応用科学科教授。イヌとヒトとの絆を科学的に証明した研究で、科学雑誌「Science」の表紙を飾る。NHK「ヒューマニエンス」、「チコちゃんに叱られる！」ほか様々なメディアに出演多数。『最新研究で迫る 犬の生態学』など著作多数。



菊水教授と愛犬ケビン・クルト君

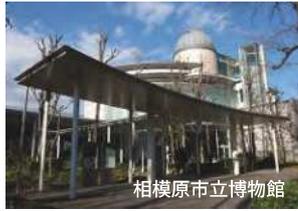


▲相模原市立博物館

問い合わせ先

博物館

電話 042-750-8030



イヌは最初に家畜化された動物であり、ヒトに類似した社会認知能力を獲得することで、ヒトとイヌという異種間の共生を加速させてきました。興味深いことに、日本の柴犬や秋田犬などのアジア原産の犬種は、遺伝的にオオカミに近い古代種に分類されます。イヌの家畜化は、ヒトによる選択的な交配だけではなく、イヌ自身が、ヒトの文化的側面を許容して、適合してきた可能性も大きいのです。つまり、イヌの家畜化、特に地域ごとの犬種の違いを理解することは、それぞれの地域文化を理解することにもつながります。今回の講演では、イヌの家畜化と、その家畜化の中での日本犬の特徴を紹介し、遺伝と文化の相互作用について考察します。

ヒトとイヌの絆

最新研究が示す、特別な関係の現在、過去、未来

2025年3月20日 春分の日 (木)

午後2時～4時

開場：午後1時30分

相模原市立博物館 大会議室

定員 200名 (当日先着順)

参加無料

相模原市立博物館公式 HP



講師

さくすいたけふみ

菊水健史さん

東京大学農学部獣医学科卒、博士(獣医学)。麻布大学獣医学部動物応用科学科教授。イヌとヒトとの絆を科学的に証明した研究で、科学雑誌「Science」の表紙を飾る。NHK「ヒューマニエンス」、「チコちゃんに叱られる!」ほか様々なメディアに出演多数。『最新研究で迫る犬の生態学』など著作多数。



菊水教授と愛犬ケビン・クルト君



相模原市立博物館

相模原市中央区高根 3-1-15 TEL 042-750-8030

